



コロナ危機に負けない

若槻地区住民自治協議会 会長 渡邊 進



新年あけましておめでとうございます

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたことと心よりお喜びを申し上げます。

旧年中は、コミわかの実業運営にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございました。本年も引き続き皆様方のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

とは申せ、昨年1月早々から期せずして始まったコロナ禍はあれよあれよという間に猛威を振るい、住自協の年度最初となる4月の定期総会も開けず、規約に従い前週に開催した最終役員会をもって承認・スタートしました。部会が主催する子供相撲大会などの事業も中止を余儀なくされ、その勢いは秋になっても削がれることなく、大運動会、若槻フェスティバルと中止が続いています。

皆、我慢に我慢をし、自粛を続けているにも関わらず、コロナは収まる気配を見せずに、住自協の活動は「3密」対策をとった上で開催される月1回の役員会、月2回の企画調整会議が中心という事で、無力感を感じております。

そんな中、ありがたかったのは、一昨年台風被害の様な災害が一切なかった事と、市長との懇談会でのコミュニティーセンター建て替えの請願に対し、市長から

「豊野公民館と長沼交流センターの復興が優先となるが、せめて二階へのエレベーターとトイレの設置、体育館に冷暖房の設置を考えよう」との、前向きな発言を頂いたことでした。

ステイホームに始まり、ウィズコロナとなる中、経済対策として始まったGo to トラベル、Go to イートも今では批判されています。

閉塞感に押しつぶされそうな感じではおりますが、お互い生きていかなければならないので、今できることをしっかりやるしかないのだと存じます。



マスク生活が、3密対策が、いつまで続くのか見通しは立ちませんが早期に収束することはないでしょう。

しかも、今年も国内外とも問題が山積しておりますが、いかなる時代であっても、若槻地区を住民の皆様が住みよいと思える街にしてい

くことがコミわかにか課された使命であります。コロナに負けず我々の生活を守っていきましょう。

その為にも、地域の皆様方のご支援、ご協力を賜ります様重ねてお願い申し上げますとともに、皆様方にとって幸多き年となることをご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

